

持続可能な資本主義とは何か
- アспен研修所ローマで考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)先週の「開倫塾の時間」では、経済視察団の一員として2月11日にサムソン研究所を訪れたお話をさせていただきました。サムソンは、韓国で大活躍をしている会社です。そのサムソンでは、どのようにグローバルな人材を育成しているかについて、先週お話をさせていただいたのですが、説明し忘れたことがありますので加えさせていただきます。
- (3)サムソンという会社の公用語は英語です。英語ですべて議論しています。ですから、これから先は国際化を目指す企業ではどこでも英語が大事になるのではないかと、もっと言えば、企業として国際化を目指すのであれば、もっと英語を活用すべきである。公用語に加えるべきではないかと思えます。韓国のサムソンの経営手法から学ぶことは大きいと考えます。

2. 持続可能な資本主義とは何か - アспен研修所ローマで考える -

- (1)さて、2月20日と21日にローマに行ってきました。そこで、そのローマでアспен、フォー G8 という国際会議に出てきましたので、今日はそのお話を少しさせていただきます。
- 今年7月には、イタリアで G8 サミットが開かれます。去年の今頃には北海道の洞爺湖で G8 サミットが開かれ、日本でも大いに盛り上がったのを皆さんも覚えていらっしゃると思います。今年はそれがイタリアで行われるのです。
- (2)イタリアのローマにあるアспен研究所が、イタリア政府や外務省の支援を受けながら、G8 サミットの中身について話をするという会議がありました。私はたまたまそのような会議があることを OECD のホームページで知って参加の申込をしました。すると、飛行機代や宿泊費をもつので参加してほしいという招待状が届きましたので、またとない素晴らしい機会、光栄なことであると思い行かせていただきました。
- (3)テーマは、「持続可能な資本主義とは何か」「持続可能な金融とは何か」「持続可能な消費とは何か」でした。開催場所は、ローマに本部のある国連の機関の1つである World Food Program (ワールド・フード・プログラム、世界食糧計画)でした。

- (4)参加者は全部で 100 名ぐらいで、60 名ぐらいはイタリアの方で、40 名ぐらいは外国から参加した方々でした。有名な方としては、国連の元事務総長のコフィー・アナン氏、IMF の代表者の方、OECD の事務局長の方などもいらっしゃいました。日本からの参加者は私一人でした。非常に勉強になりましたので、その中身を少し紹介させていただきます。
- (5)今は大変な経済状況下にあります。といった資本主義はこれからどこに向かうのかというのが最大のテーマでした。資本主義はこのままでよいのか。アメリカに端を発した世界経済危機であるが、あまりにも自分勝手にいろいろな商品を作り過ぎてしまった、特に金融商品をつくり過ぎてしまったので、それが一部のみに利益の極大化をもたらす形となり、一般的な銀行や金融機関に多大な迷惑をかけ、最終的にはアイスランドやラトビアなどの国家破産に結びついてしまった。このようなことがないようにするためにはどうしたらよいか。このような内容の会議でした。
- (6)私の個人的な考えですが、金融商品はもしかしたらネズミ講のようなものだったのかもしれませんがね。それを金融工学の研究の成果と称して格付機関が非常に高く評価しました。小泉内閣の竹中大臣の活躍でいかがわしい金融取引が全面禁止になり、経営の健全化が本格化していたため日本ではそれほど多くの影響を受けた金融機関がなかったのですが、格付機関の高い評価を信じて世界中の年金基金や証券会社、銀行などがサブプライムに汚染された金融商品を買ってしまい、にっちもさっちもいなくなって今日のような経済状況に陥ってしまったのだと思います。
- (7)資本主義の下では、経済活動は自由ですが、それでもある程度の制約は必要だと思います。やってよいことといけないうこと、道徳的にやってよいことといけないうことはあります。資本主義は資本主義で、自由主義は自由主義ですばらしいとは思いますが、やはりルールの中でプレイする、枠組みを決めてその中でプレイするのが望ましいのではないかと考えます。
- (8)金融工学は、米国の超一流の理工系大学院出身の方が作った商品ということです。理工系の方が金融商品を作ることは悪いことではありませんが、あまりにもお金儲けのための技術に走り常軌を逸してしまっただ。その影響が出てしまったのが、今の経済危機です。ですから、ある程度の枠組みを世界中で決めたほうがよいと思います。それを考えないと、さらに大変な状況になると思います。
- (9)会議は、イタリア語と英語で行われました。イタリアというと、中川大臣の記者会見での不明瞭な受け答えが問題になり、お酒を飲み過ぎたからだ、風邪をひいて薬を飲んだからだなどと騒がれましたが、私も行って驚いたことは 1 時間半ぐらいある会議の昼休みにみんながワインを飲んでいました。酔っ払ってしまうと大変なので私は飲みませんでした。同時通訳の方たちまでワインを軽く飲んでいただけには本当に驚いてしまいました。心配になり大丈夫かどうか聞いたところ、「私は、日本の大臣ほどお酒に弱くないので大丈夫」という答えが、隣に座っていたイタリア語と英語の同時通訳の方から返ってきました。
- (10)イタリアでは食事のときに頻繁にお酒が出されます。ですから、ちょっと飲み過ぎると大変な状況になってしまうということがわかりましたので、これはよい勉強をしたなと思いました。

3. おわりに

(1) 2月20日と21日にはアスペン研究所で開かれた「アスペン・フォー・G8」というG8サミットに向けての国際会議に出席させていただきましたので、今日はその報告をさせていただきました。

(2) ここで強く思ったことは、会議などはすべて英語で行われますので、英語の力だけは普段からつけておかないと、国際会議などに出ても大変なことになるということです。ぜひ、皆様にも大いに英語を勉強していただければと思います。

[コメント]

CRT2009年3月21日の放送速記録に語句の修正を加えた。イタリアでのサミットも無事終了し、世界は新しい経済秩序の構築に向けて動き始めた。不況はますます深く、また、広くなりつつある。その一方で、地球温暖化や超高齢化、グローバル化、地域紛争、核兵器の拡大など世界が抱える問題も多く数知れない。

大不況の下で、様々な問題をどのように解決して持続可能な社会を構築していったらよいか。一人ひとりが十分に考えたい。

- 2009年9月11日 林明夫記 -